

# 聖徳学園中学・高等学校Q & A

## 1. 学校の基本的理念に関して

---

Q1. 学校の教育方針を教えてください。

A. 本校の特徴は、下記のような点にあります。具体的には、ホームページの「教育方針」をご覧ください。

専任教員スタッフの充実と2人ホームルーム担任制

他の私立学校や公立学校に比べ専任教員一人当たりの生徒数が約14人に1名と、生徒一人ひとりに向き合って指導できます。中学1・2年生ではホームルームに正担任を2名おいて指導しています。

生徒の個性を伸ばす豊富な学校行事

中学1年生は年に2回の宿泊行事があるなど、様々な学校行事があります。行事を通して自分の個性を発見し、仲間との協調性を養います。

独自の知能開発の授業

中学1・2年生では、問題解決能力と創造性を身につけるため、アメリカの心理学者ギルフォード博士の知能構造理論に基づいた独自の授業を展開しています。

Q2. 宗教教育が行われているのでしょうか？

A. 聖徳学園という名称の由来は、学校の創設者が浄土真宗の僧侶であり、聖徳太子の教えを建学の理念としたことによります。本校では、宗教教育は行っていませんが、聖徳太子の「和の精神」や先進性を取り入れる心構えなどは、現在でも意義あるものがあり、本校の精神的な支柱となっており、本校の家庭的な校風の源泉となっております。

Q3. 校則について教えてください。

A. 聖徳学園では、社会のルールの中で自ら考え自主的に行動できる人間に育てることを目標としています。細かな校則で生徒を縛るのではなく、聖徳学園の生徒としてあるべき姿を「生徒心得」として定め、守るべき行動規律として生徒を指導しています。

生徒心得

社会のルールを守り、規律ある行動を心がけます。

知的な好奇心を旺盛にし、快い学習環境に心がけます。

清潔・端正であるよう、知的容姿と品位に心がけます。

Q4. 生徒指導の方針について教えてください。

A. 生徒指導のねらいは教育方針を踏まえて、生徒自身が生活環境に適応し、自主的、主体的に学校生活を送れるように援助していくことにあります。このために不可欠な次の2点を具体的な指導目標として掲げています。

「基本的生活習慣の習熟」の援助

「自由・規律の尊重」の援助

本校では生徒の行動に対し、いろいろな場面で自ら「正しい行動」について実践し社会のルールを学習するように指導していきます。生徒が間違った行動をした場合には、教師は何度でも生徒と面談し、正しい行動ができるよう指導していきます。

また、問題行動を押さえるだけでなく、生徒一人ひとりの学校生活や学習活動中で、教師が積極的に生徒に関わり、責任感、協調性、思いやり、優しさなどの資質を育成するようつとめています。

## 2. 学校の教育内容に関して

---

Q5. 心の教育について教えてください。

A. 生徒が健全な学校生活を送るためには、当然、生徒の心の状況も健全でなければなりません。本校では2人担任制(中1・2)やカウンセラーを生徒相談室に常駐させるなど、生徒を多様な側面から見守っています。また、客観的な把握のために中学1年生と高校1年生では、生徒自己理解調査(心理調査)を行うなど、心の状況の把握に努めています。

問題が発生してからカウンセラーが対処するのではなく、問題が起きないようにする予防的なプログラムに力を入れています。たとえば、「友人関係の作り方」、「怒りのコントロール」、「やさしい頼み方」など対人関係を円滑にするソーシャル・スキルプログラムを学習する機会もあります。そのほかにも、ストレスコントロールを学ぶ講座や瞑想講座など様々な講座を開催し、積極的に生徒と関わる機会を設けることにより、生徒のストレス軽減のために努力しています。

Q6. 保護者が生徒相談室でカウンセリングを受けることができますか？

A. 学校では保護者の方の心のあり様が、生徒の心に与える影響についても考慮しています。子育てに関する悩み事などご相談ください。

Q7. 進学指導の方針について教えてください。

A. 本校では、全員が大学受験を目指しているので、生徒一人ひとりの個性や適性を大切にして、きめ細やかな進路指導を行っています。高校1年生から高大連携講義や進路説明会・講演会を実施して、生徒が主体的にそして段階的に進路について考えられるように指導しています。更に進路に関する悩みや相談には、専門スタッフがそれぞれ丁寧に対応しています。こうしたきめ細かい進路指導を通して、生徒一人ひとりの進路実現を応援しています。

Q8. 具体的な模擬試験の受験状況について教えてください。

A. 中学課程では、ベネッセの「学力推移調査」という模試を受け、全国的な位置づけを意識させるようにする一方、学習時間や方法についての調査もあわせて実施し、生徒との面談に活用しています。中学3年生からは大学受験に向けての実践的な外部模試を実施し、河合塾及びベネッセのコンピュータによる模擬試験分析システムを通して、生徒の学習状況を把握し、きめ細かな指導を実現しています。その上で教師は生徒と面談を行い、希望する進学先に対して必要な助言を与えています。

Q9. 「進学セミナー」とはどのようなシステムですか？

A. 高校1年生より開講される放課後を利用した「進学セミナー」は、原則として90分単位で行われる大学受験に向けて設定された課外の特別授業です。学年を追うごとに開講数が増え、生徒の希望(進路)やレベルに応じた授業が用意されており、生徒は外部の予備校に頼ることなく効率的に学習し、希望する進学先に合格できるようシステムが系統的に作られています。生徒の実態をよく理解した本校の教員が中心となって行っているため、自分の力にあった授業を受けることができ、質問・相談にも応じやすい環境が用意されています。また中には、大手予備校の講師の方をお招きして実施しているセミナーもあります。生徒の意識を高めるため受講料をいただいておりますが、1講座年間で9000円と月1000円にも満たない金額です。

Q10. 文系理系のコースにはいつ分かれてますか？

A. 高校2年生から、文系コース・理系コースに分かれたクラスになります。一貫生と高入生が完全な混合クラスになるのも高校2年生です。

Q11. 2学期制、3学期制のどちらですか。授業は土曜日もありますか？

A. 本校は学校生活の上では2学期制として前期と後期に分けています。授業は50分授業で、平日6時限、土曜日4時限行われます。中間テストや期末テストという名称はなく、年6回の学習診断と、学年にもよりますが年2～3回の外部模試による実力診断が実施されます。

Q12. ふだん、補習や学習会は行われていますか？

A. 学習診断などテストの結果をみて、理解が不十分な場合には、指名制で放課後に補習授業が行われます。また、夏休みにも夏期補習授業が集中して行われます。0時限目として読書や自学自習などに取り組む朝学習も行われています。各種検定試験や学習診断などの前には、教科によっては学習会を開くことがあります。

Q13. クラス編成の方針を教えてください。

A. 本校でのクラス編成は、35人程度の男女混合クラスを基本としています。中学1年から成績上位者による選抜クラスが設けられます。

Q14. 中学の難関大CCとは何ですか？

A. 中学では難関大学チャレンジコース(難関大CC)を平成24年度から新設します。難関大学チャレンジコースは、入学試験の結果が2科目で80%、4科目で75%程度以上の生徒で編成されます。その他のクラスは均等にクラス編成を行います。

Q15. 高校の難関大CCとは何ですか？

A. 高校では難関大CCは2つの意味を持ちます。1つは、高入生の難関大学チャレンジクラス(難関大CC)です。もう1つは一貫生の難関大学チャレンジコース(難関大CC)の選抜クラスです。高校2年次で全てのクラスが文系と理系に分かれて混合クラスとなるので、この2つの難関大CCも一本化され、切磋琢磨して難関大学を目指すこととなります。

Q16. クラス替えはありますか？

A. 毎年進級する際に、クラス替えが行われます。

Q17. 留学制度について教えてください。

A. 本校の留学制度は、長期1年、中期3ヶ月、短期1ヶ月弱の3種類に分かれています。長期留学期間中の学費は半額免除され、単位は長期留学先の学校の単位を本校でも認定しますので、留年することなく所属学年に戻ることができます。例年、3～4人が学校の長期留学制度を利用しています。中期3ヶ月の留学先はオーストラリアで、高校1年生の1月から4月上旬にかけて行われます。短期1ヶ月弱の語学留学はイギリス・アメリカが対象国です。

Q18. 独自の奨学金制度はありますか？

A. 本校には「学力奨学生」と「授業料特別減免制度」の2種類があります。学力奨学生は、成績・勤怠等の優秀者で模範的な生徒が対象となります。学年につき、おおよそ1～2名で、毎年年度末に審査されます。授業料特別減免制度は、在校中に保護者の方が失業等で家計が急変し、結果として学校を辞めざるを得ない状況になった場合に授業料を減免する制度です。この制度を受けるためには複数の条件と審査があります。

### 3．学校生活について

---

Q19．自転車通学はできますか？

A．自転車通学は可能ですが、通学距離により審査し、許可するかどうか判断します。自転車通学をする場合には、事前の講習を受け、また、必ず賠償保険に入っていることが必要です。

Q20．制服・指定用品について教えてください。

A．制服には夏用・冬用の正装の組合せの他、セーターやベストなどアレンジして着用することができます。登下校時には制服以外の衣服を着用することは禁止していますが、やむを得ない事情がある場合は、「異装届」を担任へ提出します。カバンについても、学校指定のカバンを利用して下さい。

Q21．昼食はカフェテリアを利用できますか？

A．原則的に営業時間内であればカフェテリアで食事をすることができます。中学 1 年生の夏休み前までの期間は教室で担任を囲んで食事をしますが、この場合もカフェテリアに昼食のお弁当を注文することができます。学年によって異なりますが、カフェテリアの利用者とお弁当持参者の割合はほぼ半々です。女子はお弁当持参者が多いようです。

Q22．カフェテリアのメニューについて教えてください。

A．メニューについては、日替わりの定食や一品料理があります。詳しくは、ホームページの学園案内の「カフェテリア」をご覧ください。

Q23．携帯電話を持参させてもよいですか？

A．遠距離通学や防犯その他生活上やむを得ず必要なケースがあり、携帯電話の学校への持込みは認めています。基本的には「校内では緊急時以外は使用しない」というマナーを身につけています。

Q24．クラブ活動についての考え方を教えてください。

A．クラブ活動は一人ひとりが生き生きとした学園生活を過ごせる場として位置づけています。クラブ活動は、生徒会が運営する「スポーツや文化活動に興味と関心を持つ同好の生徒による組織」で生徒にとっては、自身の好奇心に基づき、スポーツに打ち込み、あるいは研究発表できる楽しい時間です。活動の中で、生徒達が自主性、協調性、責任感、連帯感など社会生活に必要なマナーを習得できるよう、学校では最大限のサポートを行っています。

Q25．クラブ活動に参加している生徒はどれくらいいますか？

A．中学生においては全員クラブ活動に参加するよう指導しています。高校生になると、70%ぐらいがクラブ活動をしています。

Q26．中学校から高校への内部進学には入試はあるのですか？

A．中高一貫校なので、中学生のほぼ全員が原則として入試なしに高校へ進学します。ただしまれに、成績が著しくふるわない場合や学校生活を順当に送ることができそうにない場合には、他校への進学を勧めております。

Q27．中学入学後、他の高校への外部受験はできますか？

A．本校は中高一貫校ですので、中学入学の時点で高等学校へ内部進学する前提で入学いただいております。従って、外部受験の指導というのはいりませんが、家庭の事情等でやむを得ず公立学校等へ受験される方もいます。外部受験される場合には、高校への内部進学はできません。

## 4．入学試験に関して

---

### 中学入試・高校入試共通

Q28．学校説明会の内容は、毎回同じでしょうか？

A．教育方針・進路指導方針など基本的な学校に関する内容は毎回同じです。ただし、各回ごとに、学年やクラスの様子、教科指導の特色、クラブ活動の様子、行事の報告など、異なったテーマでの話も行います。

Q29．郵送による出願は認めてもらえますか？

A．原則として認めていません。提出された書類に不備がある場合は受験資格がない恐れがあります。ただし、遠方などでやむを得ない事情がある場合には前もって事務室までお問い合わせ下さい。

Q30．特待生制度について教えてください。

A．特待生制度には、2種類あります。

特待生A・・・[中学]入学金及び1年間の授業料の合計額を免除します。

[高校]入学金・施設拡充費及び1年間の授業料のうち就学支援金を超える額の合計額を免除します。

特待生B・・・[中学]入学金を免除します。

[高校]入学金を免除します。

Q31．特待生の基準について教えてください。

A．入試における特待生の基準は、中学・高校とも共通です。原則として特待生Aが85%～90%程度以上、特待生Bが80%～85%程度以上の得点をとった受験生が対象となります。特待生Aの生徒は次年度以降も各学年において学業成績が優秀であり、出席状況が良好な場合、引続き特待生として授業料が免除されます。

高校入試では、推薦入試の場合は5教科の評定が2.4～2.5、併願優遇の場合は5教科の評定が2.5で特待生Aとなります。5教科の評定が2.3～2.4で併願優遇の場合、特待生Bとなります。

Q32．入試結果を電話で問い合わせできますか？

A．電話でのお問い合わせには御回答できません。中学入試・高校入試ともにインターネットにより確認するか、受験票を持参して事務室窓口へ合否通知書を受け取りに来て下さい。

Q33．合否通知書を発表時間内に受取りに来ない場合には、不合格になりますか？

A．入学手続き期間内は事務室で保管しております。手続きをされる場合には、合格通知書が必要になります。また、合格通知書に同封されている「入学手続きのお願い」をお読みください。

Q34．合否をインターネットで見るとはどうしたらよいのでしょうか？

A．中学入試・高校入試ともに窓口での発表のほか、インターネットによる発表も行っています。希望される方は、出願後に所定の申込用紙に必要事項を記入して窓口へご提出ください。発表はパスワードを利用した個別画面による発表となります。

Q35．通学時間に制限があるのでしょうか？

A．特に制限を設けていません。JR中央線武蔵境駅より徒歩3分という利便性のため、東京都以外からの通学する生徒も多数おります。

## 中学入試

Q36．体験授業について教えてください。

A．体験授業は、中学入試の説明会で本校がもっとも力を入れているイベントです。実際に入学を希望する児童に学校をよく知ってもらうために行われます。保護者の方も希望があれば、参観することができます。

Q37．一般入試で2科と4科の選択受験ができますが、合否の判定に有利・不利がありますか？

A．2科・4科ともに国・算は同一の入試問題を使用しています。

合否の判定は第1段階として、国・算（各100点）の合計点で行います。入試問題の平均点にもよりますが、基準点に達している者を合格とします。基準に達しなかった4科受験者に対しては、第2段階として理・社の得点（各75点）を加味して4科の合計点で基準点に達している場合は合格となります。従って、4科受験者は判定機会が2度あるということになります。

Q38．午前入試・午後入試は、両方受験することができますか？

A．受験できます。同一日の午前入試と午後入試を受験される場合には、1回分の受験料で午前と午後の2回の試験を受けることができます。総合入試と午後入試でも可能です。

Q39．午後入試に2回のチャンスがあると聞きましたがどういうことですか？

A．午後入試の集合時間は14：30で試験開始15：00の時間帯と、集合時間15：30で試験開始16：00の時間帯のどちらかを選択できるということです。

Q40．中学入試の合格基準を教えてください。難関大CCでの合格基準も教えてください。

A．平成24年度から新設される難関大学チャレンジコース選抜クラスは、入学試験の結果が2科目で80%、4科目で75%程度以上の生徒で編成されます。一般合格の基準はこれまで通り55%を目安として下さい。

Q41．総合入試について教えてください。

A．健康かつ様々な分野において充実した小学校生活を過ごした者を対象とした選抜制度です。この制度を希望される方は総合入試希望を個別相談でお申し出下さい。総合入試の説明会のご案内状を差し上げます。選抜にあたっては、出願の際に5年生・6年生の通知書のコピーを提出いただき、入試には国語・算数・面接を行います。試験は一般入試に比べて基礎的な学力を問う問題です。

## 高校入試

Q42．推薦入試の基準について教えてください。

A．単願で中学校長の推薦の得られる生徒が対象です。5段階評価で内申3科12、5科20が基準です。3科目は英数国・英国社・英数理のいずれの場合でも可能です。英検・漢検・数検は3級以上でプラス1です。詳しくは説明会・相談会でお尋ね下さい。

Q43．一般入試の併願優遇と基準について教えてください。

A．一般入試で本校を受験される場合、一定の基準を満たした受験生には優遇した合否判定を行うものです。基準は推薦入試の基準に準じたものですが、多少違いがあります。詳しくは説明会・相談会でお尋ね下さい。

Q44．一般入試の合格最低点はどれくらいですか？

A．一般入試は、傾斜配点による500点満点です。平成23年入試の合格最低点は、A型は英語200点・国語200点・数学100点で293点、B型は英語200点・数学200点・国語100点で280点でした。

Q45．公立高校に合格した場合、入学金は返してもらえますか？

A．本校の一般入試の場合、入学手続きの〆切は3月2日となっており、神奈川・東京の生徒は合格発表の後になります。埼玉の生徒は特別に入学手続きの締め切り日を3月12日としていますので、これも発表の後になります。従って、本校には入学金の返還制度はありません。

### 帰国子女入試

Q46．帰国子女入試について教えてください。

A．本校では1年以上の海外滞在の経験のある児童・生徒に対して、帰国子女入試を行っています。中学では帰国から入試日までに3年以内、高校では中学校課程で1年以上の海外滞在、が条件となっています。

帰国子女編入については随時ご相談に応じ、試験日を設定しております。

帰国子女入試を受ける方は、「海外在留証明書」「成績証明書」「在籍証明書」等の海外に滞在していたことが証明できる書類をご用意ください。

Q47．帰国子女入試の条件を満たさない場合はどうしたらよいのですか。

A．中学入試の場合、総合入試では海外在住の経験を高く評価し、合格判定の決定的な要素の1つとしています。高校入試では、海外在住の経験を合否判定での優遇条件の1つとしています。いずれの場合も入試広報部までお問い合わせ・ご相談下さい。